



TRIOLE特集号に寄せて

取締役専務

伊東 千 敏

インターネット、ブロードバンドそしてユビキタスとIT利用の風景は大きく変わりつつあります。人、業務、情報、知識などあらゆるものが「つながる」時代となり、企業を取り巻く環境も、グローバル化の加速、企業間コラボレーション、企業と顧客との関係の変化、現場へのITの浸透によるフィールドイノベーション、といった大きな変化が起きています。従来のようにあらかじめ決まっていることを「効率」良く実施する時代から、激しく変化する環境の中で顧客ニーズや市場を素早く感知してそれに対応するか、という「質」が問われる時代に移ってきています。環境変化は脅威だけでなく新たなビジネス機会をももたらします。加速・複雑化する環境変化への迅速な対応を行う上で、ITの重要性はますます高まってきており、IT利用の巧拙が経営にも大きな影響を与えるようになってきたと言えるでしょう。経営とITのかかわりが強まるなか、ROIを重視する企業は、IT活用の目的を従来からのコスト削減だけでなく、事業拡大/収益拡大に向けた「攻めのIT活用」にシフトしてきています。

こうした時代の中で、経営革新を支えるべき企業のITシステムに求められるものは、安定性・機敏性・効率性です。「つながる」時代は、相互の依存関係が増大する時代であり、各企業はサービスを安定的に提供することが従来にも増して求められます。また、環境変化に即応してタイムリな業務変更を行うには、日常的にシステムの改築・増築を可能とする機敏性が求められます。全体最適化を考慮してのIT投資の効率性も重要です。

オープン化の流れは、各部門主導による業務処理システムの導入により大いに業務効率の向上に寄与してきましたが、一方で部門最適化を加速したという見方もできます。優れた製品同士を組み合わせること（Best-of-breed）で比較的安価に構築された部門システムは、企業全体として見た場合必ずしも全体最適化したものではなく、構成製品の多様さ・システムの複雑さにより、運用管理コストの急増をもたらしています。また、安定性・機敏性の上でも課題含みと言えるでしょう。

富士通のTRIOLE（トリオーレ）は、安定性・機敏性・効率性を実現する、ユビキタス時代のIT基盤です。TRIOLEは、富士通のDNAである高信頼性へのこだわりと、オープン製品の良さをプラットフォームインテグレーションという手法で掛け合わせるとともに、先進的な自律・仮想技術、グリッド技術によってシステムの複雑性を低減させ、運用しやすいものになっています。TRIOLEはオープンアーキテクチャであり、サン・マイクロシステムズ、インテル、オラクル、マイクロソフト、レッドハットなどグローバルなITベンダの協力のもとで進めています。とくに、自律型システム技術についてはIBMと共同でオープンスタンダード作りを推進しております。これにより、お客様には長期にわたり安心してご使用いただけます。オープンであるがゆえに常に新しい、そして全体として高い安定性と整合性を有するTRIOLE。TRIOLEによりお客様の本来のニーズである「より効率的な経営」「より高度な商品・サービスの提供」をご支援して参りたいと存じます。